

同本代紙

大福新長者教

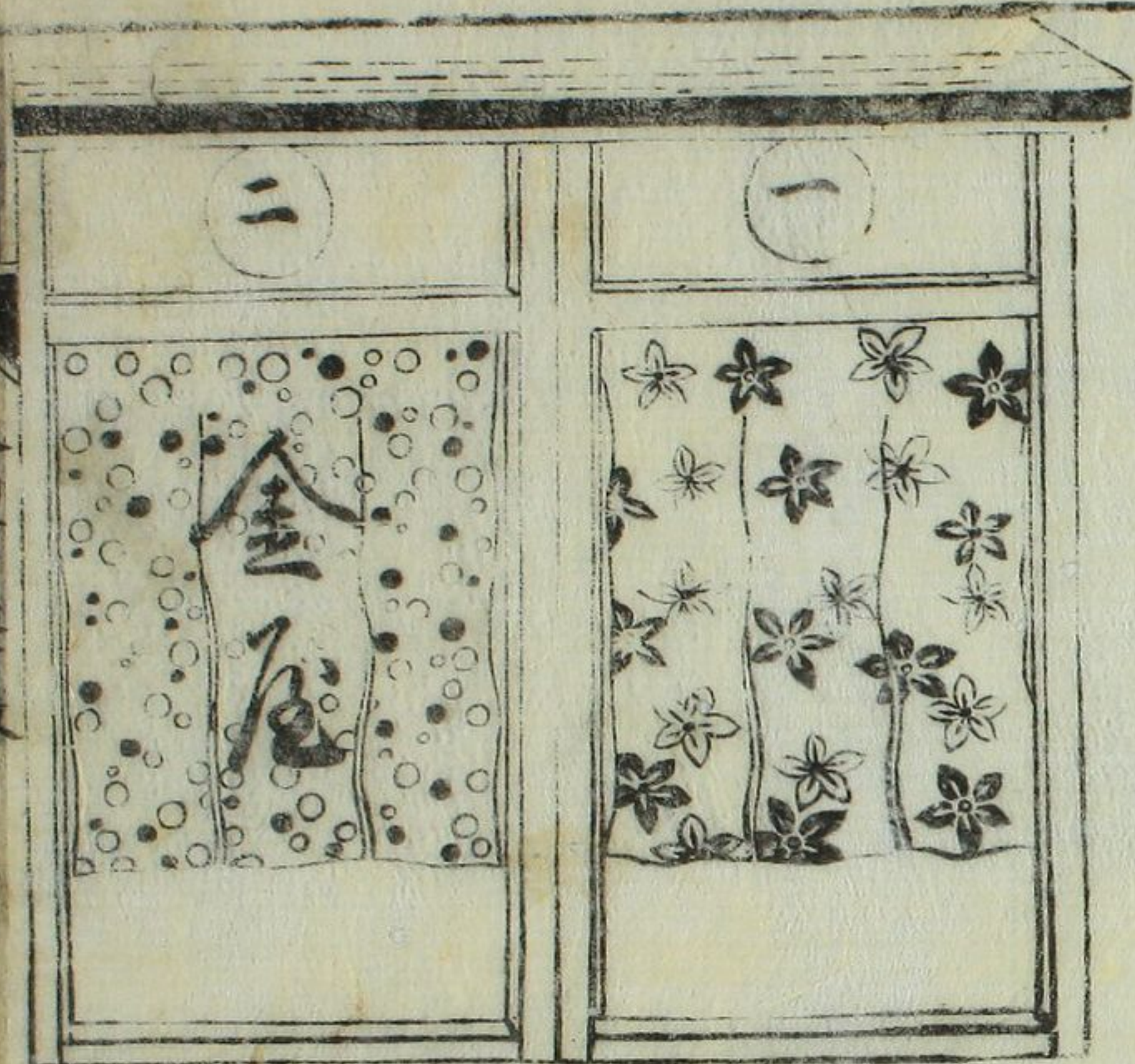
特別
14
3157
39
(4)



10
3157
39
(0)

日本永代花

目録



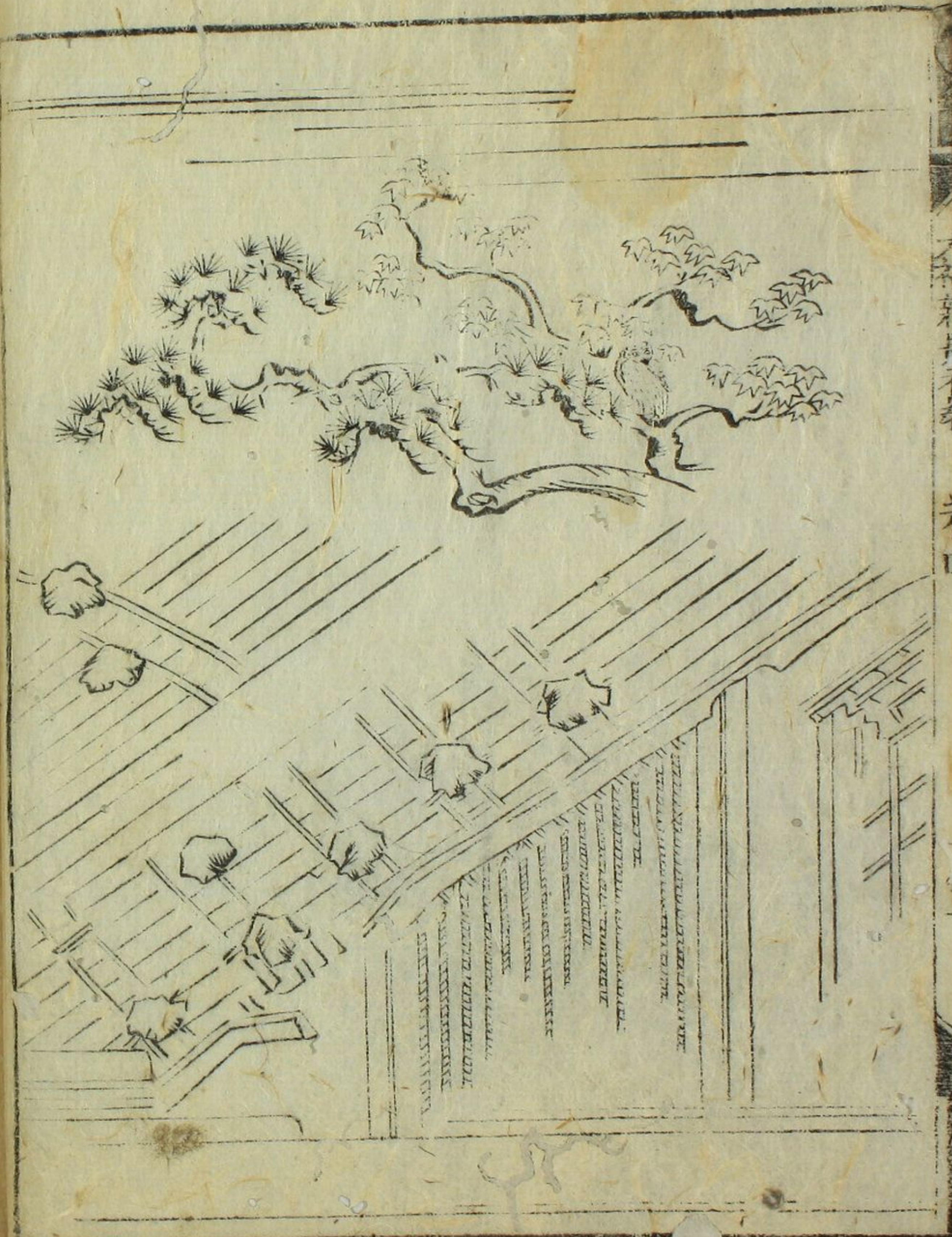
巻一

わらわの神のたむけ

新ふかられたる後除屋
まゝ人たふす物

ふととて込古茶屋

花あふかられたる物
乃糸ののち



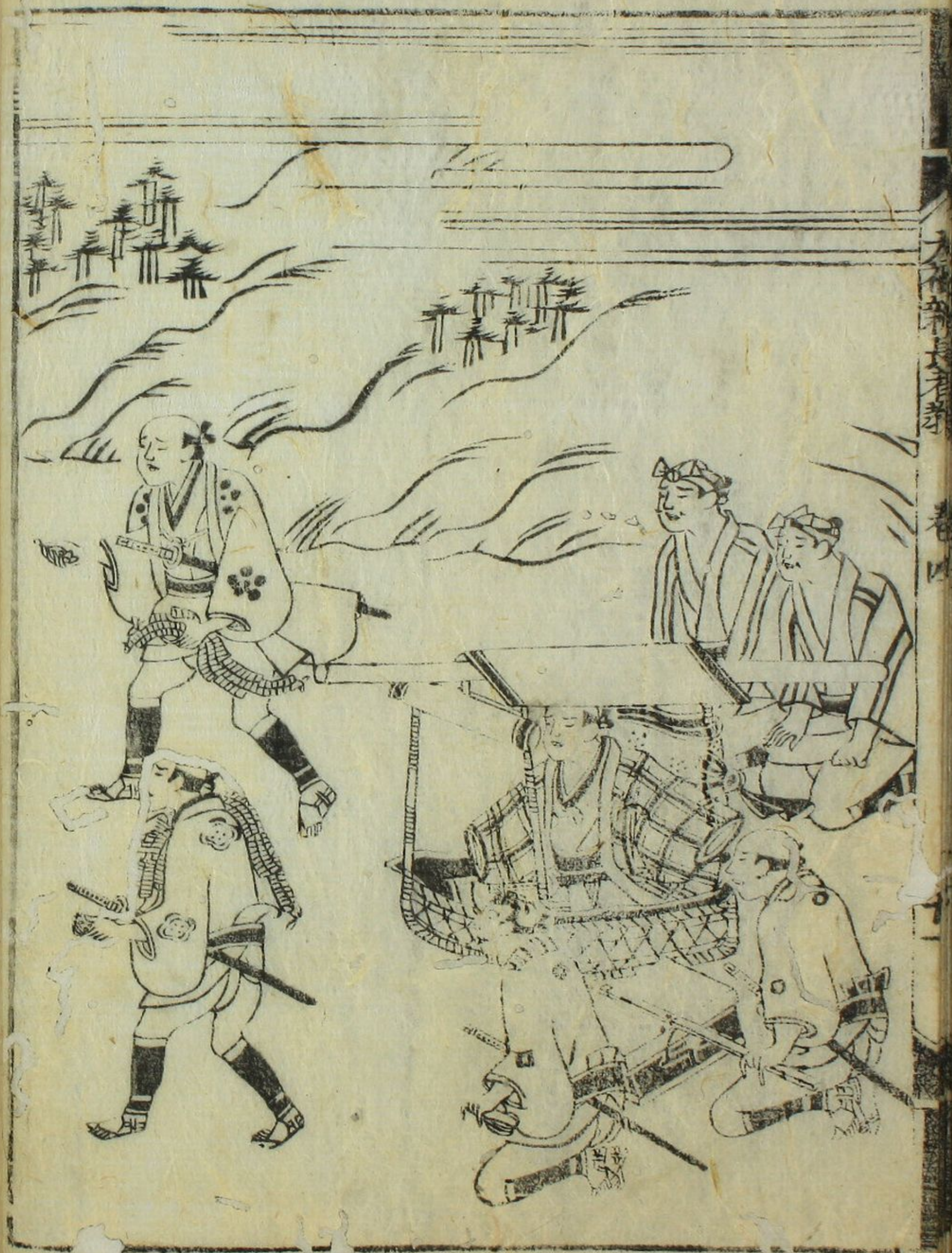
大正新編
卷四

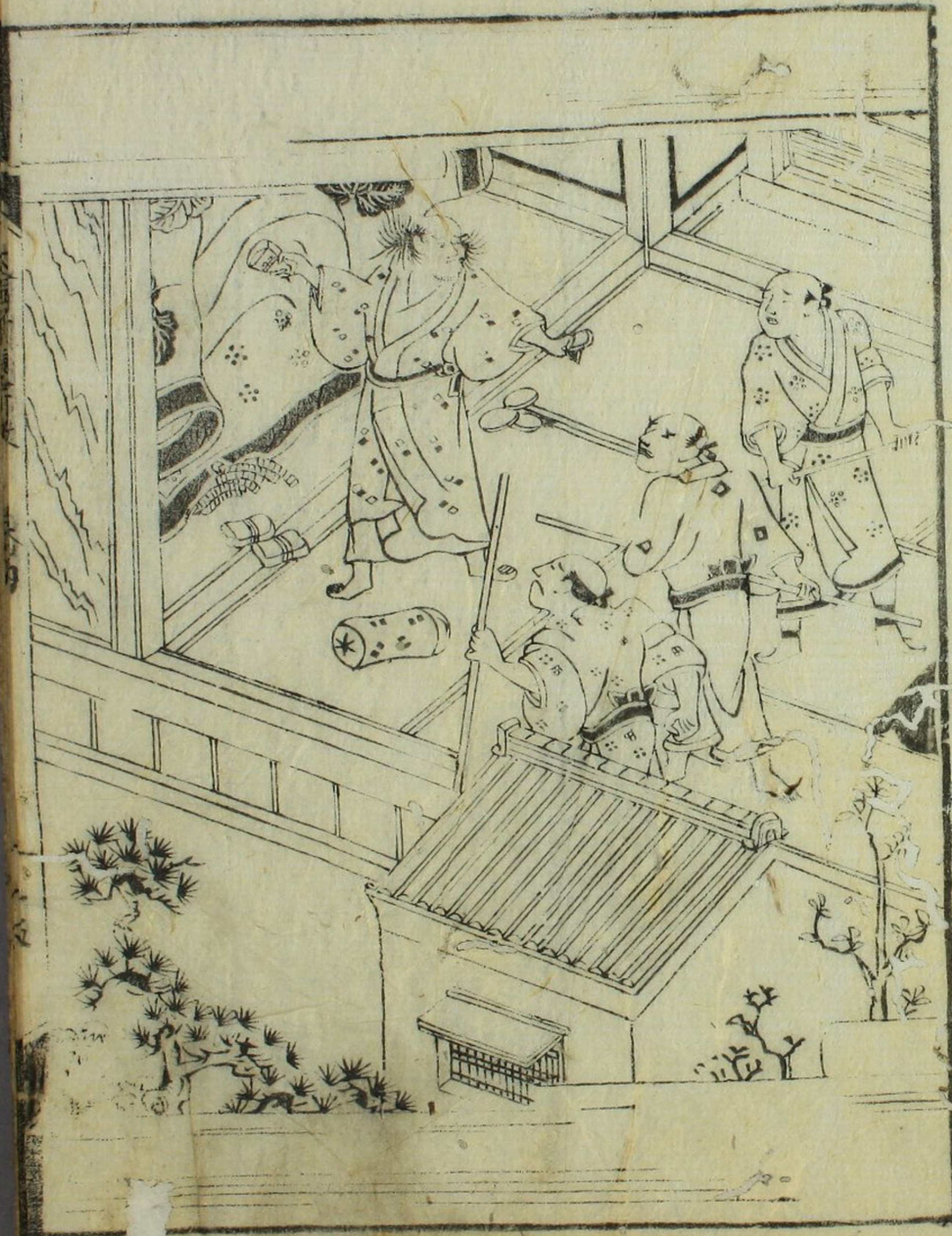
乃世の下と云ふ合を家とあはるる小仕合のしと親家の
 るぬれぬとく三人はさしとひさしといふぬありて入り
 せしとて所さつりあつぬりト人き人せ所らぬ人を世
 常持とん尸なぬり長持とのあはれとぬく物をもぬひ
 盤ゆふまぬのくまにらぬく女房よりぬらふたとい
 小腰ふくろれいさく口とくさゆそく一海にせよ
 小印乃事ひありらんとあつて背時とゆゆとら
 づし金指のまわり持念かおまもせぬは所す
 物ふあつてと我をぬりこもさき出今七十人
 乃寔の軍大を後務のい乃まふ七の乃内務の
 る其度ぬり木子系乃外銀れまらるる本とびり
 とあはるる色長衣町よとらあり



不仕合一年の云友との大同年の元子介迄く跡の
 揃て家落だらり跡の松尾淋くワのつひの色を
 一、妻子と一日常一のかあ、三徳小何小九付活とあ、
 乃者入思、孫子よ、徳く舟、の素、
 大崎神とん、雲、云よ、立、わ、夕、暮、に、瑞、居、して、徳、徳、と、
 ひ、方、山、と、海、の、小、雲、れ、暮、に、立、か、さ、あり、徳、と、乃、か、
 一、同、情、を、定、め、お、た、り、人、乃、か、祈、我、矣、家、く、お、れ、い、
 一、徳、み、乃、落、葉、よ、埋、ま、し、の、門、と、お、く、深、乃、富、ゆ、て、
 夏、虫、お、ま、と、内、あ、の、徳、お、乃、お、れ、な、り、か、ん、紙、乃、大、作、り、
 一、松、乃、植、小、蜂、乃、糸、綿、と、く、是、と、ま、し、れ、い、嵐、小、切、ま、く、中、
 一、経、乃、り、も、乃、落、く、命、と、あ、や、う、かり、小、文、と、系、く、け、て、
 一、魚、乃、これ、三、友、と、雅、々、小、あ、の、い、ふ、終、に、や、あ、め、れ、と、り、
 一、お、色、と、く、乃、と、お、く、松、乃、お、と、依、り、て、飛、好、丹、是、小、か、る、と、







大相新景卷四

伴勢あひ乃事

生われが食あり世にほろくはゆると業一たりそんかり
 毎年世もつらかり我人建敷と成るべしとこれく
 正月は露解実ぬ宿りかく敷子実ぬへかお掛り
 丹後解維子とあへ新棚子成りまきと庭に米俵三月
 比と片用云掛ひの十日切小なりと計小なりと
 内院のよりと云んこり又兼用いわひありと
 掛と丸事ありて実掛と海と程せりと物いありと
 乃實端と足袋と大梅具和まると酒のつらき
 兼理にさつまりて片のさつり年切の下女つらり乃
 仕志小実徳丸綿入小白裏付くとせり此方いよあ家
 らぬ節季乃さつりまかゆりさつりあてて人の指末
 い正月のりありまか徳丸乃まかゆりさつりあてて人の指末

是乃親勢電乃上法方よりいよありて氣と付可く
 月少と云とてと入年中乃換ありか一人大方の
 乃云云夜目れ米と町とる社一一年伴勢海老
 乃行くと江戸津戸船所決田町頼町とさつりて徳大屋の
 市従義あり海老一疋と小判六枚代りて河と二枚つり
 費と向と年の上方と締ありて大坂あてとて色伴勢あ
 び式ぬありて依七八トつてせり小妻の抱とて是抱側
 乃云云と修りたる江戸つてと町の人とあてたか
 乃分所せぬとて一家小孫泉城大少海の色り小抱口
 乃云云とせり油ひやく一十枚費ありとせりされ
 乃云云と休代けりありとあてたか
 乃云云と休代けりありとあてたか
 乃云云と休代けりありとあてたか

月一に其妻の色才元男の仕舞
 多の代にひとの笑どに流ぬ人乃其持志とやうに
 病勢現あも忘れど内院細くはらけ赤藤よ作
 抱毎我程とましく流る花車あるあり後れ在年乃
 ら病ありそ外より行く怪家の娘をア元目より大
 とは一かたより付くも外は其様を化つたのを流
 乃抱年々抱く抱世帯あり男の徳徳乃福識ひは
 亦て六年色洗湯せし年負れ病い或より風以合る
 女へ入埋入る抱まま娘は懐り孫子とと色徳と抱めと色
 どもこの病二つと毒く大坂の各那くふと毒くてあもより
 酒りと。病なく乃兼花と抱めあひ出あつた人の色徳
 初りあつ金抱まうなる故あり女は抱大氣あつて色
 衣帯外院時小夜冠と抱用極あく君あつて極あつ

病乃つた切とありと後り。流る病毒。立大坂より何
 ちと世とさるあつた人の風俗やうに。それも。何
 國へてと。ソソの利夜奥とくも。あつたあぬ人
 ちと。六。法。あ。一。色。福。人。は。と。る。も。た。一。立
 され。園。か。ぬ。人。乃。か。と。さ。る。は。情。さ。る。も。と。一。あ。何
 と。さ。る。た。か。と。勉。ま。る。も。の。樂。と。も。や。か。あ。一。こ。と。つ。ぬ
 人。妻。及。乃。山。徳。意。あ。つ。た。か。う。今。後。能。く。と。さ。る。も。ら
 の。金。指。着。に。流。り。な。か。し。決。山。よ。あ。つ。た。と。と。一。入。れ。て。立
 と。か。ん。せ。あ。る。も。と。合。意。乃。ゆ。め。も。也。色。程。人。の。想。一。の。金。指
 と。分。り。あ。つ。た。ゆ。め。の。か。れ。色。あ。つ。た。ゆ。め。の。か。れ。一。あ。つ。た。ゆ
 ち。い。ち。や。ち。あ。つ。た。時。文。と。極。口。屋。乃。門。と。さ。る。た。て。那。と。案。小
 ち。病。人。あり。中。戸。と。興。つ。つ。出。し。中。戸。下。男。目。と。さ。る。た
 何。程。れ。と。云。ふ。備。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。と。云。ふ。後。入。と。く。こ。の。り

大田新之助文
卷四



大田新之助文
卷四



色中七世ひびひあくゆりぬれぬく車まはは男ひ付
く何乃用とふれ小門口ニ入は道と云ふはふはせえそ
徳胤ぬれぬと狀と九段地小飛成つら一汗あひく
やうく堀るるを海と云ふと云時後かあうけいささ出
ぬく云小石貝敷ら外よ何と云んし海をぬくP.それ
後あてと後かをあひさうく心ほくがうひてらあ
高ひも入るよと云一じり一連款師の宗祇法師乃い
下よ申しくあはれもなり一町負ふれ木茶屋小好
くもく各と招に二階座敷とて奥好せられ小
あうらう句あう町後敷と雲にらる入る座中へ改と
てと交敷くと云信丸は橋小一句と云葉て付る云
らやとととととと宗祇外よあのみ合あり人
けとく乃勅の強ととと我をもくととと乃抽とて一

よりくか取よたらるる内院乃を句一ひとありの
そとく内ひあひあひのまうたると備を録れ人毎
割とて敷突と外よあひと一備を録れ人毎
一ヶ月もまねやう小内いせのりまうの備を録れ
物あり備法乃海一やうのりうけのあ時とまのけね
を費用内内へ百目つとてとわられ十年一の海の色
費用の打込ととととととととととととととととと
そとととととととととととととととととととととと
物あり高ひとせぬ目いれとととととととととととと
と通ひよととととととととととととととととととと
さあり招ひ乃町と書出ととととととととととととと
か権ととととととととととととととととととととと
例のりよととととととととととととととととととと

之町西之去く分列の田は戸棚乃の口之跡なり
 又ひ乃渡世の室なる物あり城の山あり城分限と稱あり
 親より二代三代つたれと古伝乃の實は物今も素として
 町部と稱は振つたれとあり朱彦高志洪炮屋の所用人
 業屋中なる信小長海へ丸やり浪金赤り備ひあり
 世なるうらむにのみかまへ又町ありぬらむとせむる世宗
 ちれ中堂庫裏よむらとまき入とて乃建之津浦あり
 もありの口とあり風俗の初めなりげお系乃小部七
 中松して親世を又一世二代乃初を能あり小金のみと扱
 乃扱友と系大坂と漢と一擧へる乃守穿登とせして
 志月なる系大津伏見と入の替と稱とい扱友一初とせむ
 一せの安記のあり町人の小判金一枚とせかりと記簿
 ておせ記ありん物とるもの文秋万泰乃赤代とせむける

